

# 養氣軒

youkiken

vol.12  
2007 Autumn

●ようきけんとは「病のみならず精神をも癒すことのできる館」という意味です。

患者さまと家族が安堵できる  
『ヒューマンホスピタル』を目指し努力します。

## 012 新体制発足



## N e w a c t i v i t i e s

宮下光世新院長の下、4月—8月に人事異動および各種委員会の再編が行われ、9月よりあらたな体制がスタートしました。

長崎神経医療センターは地域医療支援病院として、また、九州地区の神経センターとして、患者さまのための、患者さまにやさしい医療をめざします。

後列左より

浦崎外科系診療部長、金子事務部長、浅山企画課長、大石経営企画室長  
内田管理課長、荒川副看護部長、後藤内科系診療部長、東島薬剤科長

前列左より

中重看護部長、川上統括診療部長、宮下院長、松尾副院長  
近藤臨床研究センター長、山川神経センター部長

## CONTENTS

- 02 新体制発足にあたって
- 04 職場紹介① 病棟紹介
- 編集後記



「養氣軒」東鑑元碩啓筆(1905年)





# 新体制の発足にあたって



院長  
**宮下 光世**  
みやした こうせい  
就任 H19.4.1

今年度の目標として「国立病院機構の病院として、地域の中で求められる医療とともに国民の健康に重大な影響のある疾病に関する医療を提供するために、新しい知識と技術を修得し、患者さまの立場に立った、患者さまの望む、患者さまにやさしい医療をめざします。」を掲げています。

具体的には地域医療支援病院として、①かかりつけ医からの紹介を受け、専門医療の提供、②救急医療の提供、③医療施設の共同利用、④医療従事者の教育・研修の4つの機能を果たし、患者さまの立場に立った安全・安心な医療をめざします。また、クリティカルパスを使用した医療の標準化、透明性の高い医療を行い診療成績の公表などを行っていききたいと思います。



副院長  
**松尾 秀徳**  
まつお ひでのり  
就任 H19.7.1

この秋で当院に赴任して12年になりました。この間に当院は大きく変化し発展してきましたが、それ以上に医療を取り巻く環境は大きく変化しています。

今、医療に求められているものは、安心と安全、そして高い医療の質だと思います。医師確保の難しさ、医療費の抑制など種々の難問が山積していますが、初心に還って、患者さまと家族が安堵できる「ヒューマンホスピタル」をめざし、患者さんをはじめ地域の医療機関の職員・先生方にとって、困ったときはいつでも頼りになる病院になるように、そして当院で働く職員にとっては夢と誇りの持てる病院になるように努力したいと思います。



統括診療部長  
**川上 健司**  
かわかみ けんじ  
就任 H19.7.1

1999年12月に当院に赴任して以来、早いもので8年目を迎えました。この間、呼吸器科の医師とともに、結核、感染症、不明熱、睡眠時無呼吸などの専門性のある診療にあたりながら、一方で地域医療にも力を入れて参りました。院内では院内感染対策を推進し、また、当院の充実したコンピュータシステムの構築、管理に携わりました。その中で、ヒューマンネットを通じて診療所の先生方とも連携を深めることができました。最近では地域医療連携室や検査部を担当しておりましたが、今回は診療部全体を統括する担当となりました。人口減、医師数減、医療費減の困難な時代に、郡部に位置する中規模病院として何ができるのかを模索しながら、「医療の質の向上」、「地域社会に役立つ医療」を念頭において診療を提供したいと考えております。今後とも宜しくお願い致します。



臨床研究センター長  
**近藤 誉之**  
こんどう たかゆき  
就任 H16.9.1

臨床研究部は、国立病院機構全体で行う大規模研究と治験に積極的に参加することによって、医療レベルを高め、明日の臨床に貢献をしたいと考えております。さらに、本院の特徴として長崎大学の連携大学院が併設されています。神経難病、神経免疫病の病態解明と治療開発を独自に、あるいは国内外の研究者と協力して解明することを目的としています。臨床研究には、地域の医療者や患者様を含めた多くの方のご協力が必要です。

「川棚から世界への発信」を目標に、皆様のご支援にお応えできるように具体的な成果を御報告できるように努力をしたいと存じます。よろしくお願い申し上げます。



神経センター部長  
**山川 勇造**  
やまかわ ゆうぞう  
就任 H18.4.1

平成18年4月に当神経医療センターに脳神経外科が開設されて早いもので、1年半が経過しました。抱負を述べよとのことですので、これまでの当院での臨床実績を踏み台として述べたいと思います。

手術件数ですが、初年度(平成18年4月から12月末)は42件でスタートを切りました。2年目の本年(平成19年1月から9月末)は途中で65件(月平均7件)の手術を行いました。まあ順調な経過と思います。手術内容では、脳血管疾患(くも膜下出血、虚血性脳血管疾患)、頸椎・腰椎疾患および三叉神経痛・顔面けいれんなどが主要な手術となっています。肝心の脳腫瘍や外傷性頭蓋内出血はまだ少ないようです。

今年の8月に、日本脳神経外科学会の専門医訓練場所として認可されました。今後は若い脳神経外科医とともに働くことができるようになり、活発な脳外科施設となることが期待されます。また、当神経医療センターは、神経内科が充実しており、県内外から神経難病、特にパーキンソン病の患者さんの紹介が多く、最近進歩の著しい「脳深部電気刺激装置」留置のための機器導入が、脳外科浦崎先生を中心に現実化しつつあります。長崎・佐賀県在住の患者さんには通いやすくなるものと思われれます。





外科系診療部長  
**浦崎 永一郎**  
うらさき えいいちろう  
就任 H19.7.1

機能的定位脳手術(脳深部刺激療法)について

当院に求められている神経系疾患の治療はいくつかありますが、その一つとして神経難病に対する外科的アプローチがあります。たとえばパーキンソン病患者さんに対する脳深部刺激療法です。薬で治療困難な症状(振戦、その他)、薬は効くけれど副作用で悩んでいる場合(消化器症状、精神症状、薬剤性不随意運動など)、投薬では症状の変動が強い場合、効果の安定化が必要な場合に考慮します。症状に応じて視床、淡蒼球、視床下核に電極を設置し、電気刺激装置を胸部皮下に埋め込むという方法です。現在、実現の可能性について検討中です。長崎県下では未開の領域ですので、各科、各部門の皆様には、ぜひ一緒に推進をお願いできればと思います。



内科系診療部長  
**後藤 公文**  
ごとう ひろふみ  
就任 H19.7.1

当院の内科は神経、呼吸器・感染症、循環器、消化器で構成され、地域の皆様へ最新の専門医療を提供しています。しかし、専門科のみの診療では十分な医療とはいえません。医師一人一人が研鑽を積み内科一般の診療を行うと同時に、高度な専門医療を要する患者さんは専門施設へ紹介します。

外科的治療を要する患者さんが内科を受診された場合は、的確な「交通整理」を行います。人間ドッグや検診業務にも内科医が携っており、予防医学の視点も求められます。これらの診療を充実するには、当院の医師どうしはもちろん、地域医療機関の先生方との連携が不可欠です。

このたび内科系診療部長と地域医療連携室長を拝命し、院内・院外の連携が更に深まるよう努めたいと思います。よろしくお願い致します。



看護部長  
**中重 敬子**  
なかしげ けいこ  
就任 H17.4.1

看護部門の重点的取組は、看護の質の向上、安全管理体制の構築、病院経営の積極的参画です。これらを充実させるにあたって、病院機能評価認定と7対1の看護体制の取得は、まさに、看護職員の意識改革と質の向上を目指すチャンスでありました。今後この取り組みを維持するためには、看護部の教育委員会、看護業務委員会、看護記録委員会、事故防止委員会を機能させることにあります。この委員会は、診療報酬改訂で導入されることが予測される看護必要度も意識して、活動を行っています。看護必要度は、患者様の状況の評価やセルフケア能力の査定と、必要とされるケア実践の評価です。病院機能評価受審において確立した看護実践と、看護必要度項目の中の「計画に基づいた指導」と、「患者の意思決定支援」には繋がりがあり、プライマリナーズの実践意欲も向上してきていると考えます。病院経営については、BSCを取り入れたことで、患者様満足度を基本に質を向上させ、結果、「健全経営」という看護部長の管理的視点は向上してきたと思います。まだまだ課題はありますが、地域の方々に愛される病院を目指し、看護部門もさらに躍進を続けていきたいと思っています。



事務部長  
**金子 政博**  
かねこ まさひろ  
就任 H19.4.1

平成16年4月から独立行政法人国立病院機構に移行し、長崎神経医療センターとなり3年半が経過しました。国立病院機構の目標である中期計画(平成16年度～20年度)が策定され、計画達成に向けて取り組んできたところです。この中期計画では、病院の医療・経営面の業務実績の評価が重要となっています。その中には、5年間における収支相償の経営が求められています。

独立化後の当院は、神経・筋疾患、呼吸器疾患の政策医療を担いつつ、急性期病院への転換を急速に推進して、地域に信頼される医療の提供を行ってきました。その結果、医療については、皆様もご承知のとおり高い評価を得ているところです。

もう一つの経営の方ですが、平成17・18年度の経常収支はマイナスで、16年度からの累計でもマイナス(約1億円)の状況となっています。この状況を本年度で解消することは困難になりつつありますが、これからの、職員皆様のご協力をいただき、収益の増加を図り無駄を無くして、プラスに転換出来るように効果的な病院運営を目指したいと考えています。



薬剤科長  
**東島 彰人**  
ひがしじま あさと  
就任 H19.4.1

一昔前は、薬剤師の仕事は、処方箋に基づき薬を調剤して病棟や外来患者へ交付するのが中心でしたが、近年では、業務も多様化し、臨床への方向転換が必要となり、チーム医療への参画が求められています。中でも、薬剤管理指導業務は、患者様のベツトサイドですべての薬を薬学的に管理しながら、作用・副作用の説明や相互作用のチェック等を行う業務で、良質な薬物療法を提供するとともに、診療報酬にも反映し、病院経営にも貢献します。確実な薬剤管理指導業務の実施を目指したいと思います。

また、医療事故の8割近くが医薬品に絡んだ事故といわれており、今年4月の医療法の改定に伴い、病院には医薬品安全管理責任者の設置が義務づけられました。病院内では、持参薬の管理など多くの分野で医薬品に関するリスクは存在しており、薬剤師として少しでも医療事故防止に貢献できるよう、システムの見直し、手順書の改定等リスクマネジメントに積極的に取組んでいきたいと考えています。



# 職場紹介 1病棟

1病棟は、主として神経内科・脳卒中の患者様が入院されている50床の病棟です。また、脳卒中等の集約的治療を行なうSCU(脳卒中ケアユニット)3床も有しています。主に神経難病(パーキンソン病 脊髄小脳変性症 筋萎縮性側索硬化症など)、免疫性神経疾患(重症筋無力症 多発性硬化症 ギラン・バレー症候群など)、そして急性期脳血管障害(脳梗塞や脳出血)の患者様が入院されています。スタッフは神経内科医師7名、脳神経外科医師2名、看護師34名、看護助手2名です。

私たちは「思いやりと心のゆとりをもって、患者様が安全で快適に過ごせるような看護を提供します」をキャッチフレーズに、若さあふれるパワーで頑張っています。

神経難病、脳血管障害の患者様には、疾患の治療のみならず、人間の基本的欲求である「食べること」、「話すこと」などへの援助や日常生活の支援、そして何よりも患者様やその御家族が「生きがいを持って生きる」ことへの支援が重要となります。患者様の病状に応じたコミュニケーションの方法、嚥下訓練、日常生活の援助を行ない、よりよい看護を提供できるよう努めています。

また、当病棟に入院される患者様の中には入院生活

の後、自宅や施設で療養を継続しなければならないことも少なくありません。そのためには、地域の保健師、訪問看護師、ヘルパーその他のいろいろな職種の方々と連携をとっていくことが必要となります。そこで、当院では各職種の人に集まって頂き、在宅療養に必要な吸引や胃腸の管理、口腔ケア等の技術や個々の事例の検討等を行なう在宅ケア学習会を年5回開催しています。在宅療養の継続には、個々の患者様・御家族の事情など種々の困難を伴うことが多く、医療・介護に携わる方々の経験や工夫を出し合っています。入院中のみならず、退院後の療養を含めたトータルケアができるよう、スタッフ一同頑張っています。(副師長 岩本早苗)



## 編集後記

広報誌委員長 松尾 秀徳

長かった今年の夏も終わり、10月になってやっと秋らしくなってきました。4月から宮下院長を迎え、徐々に新たな体制作りが進んできました。

今回、新しい体制のスタートに合わせて、広報誌「養氣軒」も編集委員を含めてリニューアルしました。新たな編集委員は写真のような顔ぶれです。表紙のメンバーに優るとも劣らぬ精鋭(?)揃いです。

今号より紙面の一部を、入・通院の皆様に向けての情報誌として独立させた企画となっています。来年からは隔月の発行をめざしています。皆様のサポートをよろしくお願いします。



後列左より安増、灰塚、大石、草葉 / 前列左よりノ瀬、木村、松尾、荒川、福留

- JR大村線川棚駅から徒歩7分、タクシーで2分。急行バス(西肥バス長崎県営バス)は川棚バスセンター停留所で下車、徒歩7分。普通バスは長崎神経医療センター前バス停留所で下車。



独立行政法人 国立病院機構  
**長崎神経医療センター**  
 NMCN  
NAGASAKI MEDICAL CENTER OF NEUROLOGY  
 〒859-3615 長崎県東彼杵郡川棚町下組郷2005-1  
 Phone 0956-82-3121代 Fax 83-3710  
 予約・フリーダイヤル ☎ **0120-77-6420**  
<http://www.hosp.go.jp/~nmcn/>